

東京うこっけいにおける始原生殖細胞（PGCs）の保存・利用技術の確立

【研究概要】

家禽産業において鳥インフルエンザは大きな脅威となっており，青梅庁舎への侵入は種鶏の絶滅に直結する。そこで，東京うこっけいの安定的な系統維持体制を構築するために，PGCsの効率的な保存・利用技術の確立を図ることを目的に試験を実施した。その中で，今年度は下記の成果が得られた。

- （１）各孵卵時間を変えてstage14～16の回収率を調査した結果，東京うこっけいでは52～54時間孵卵した胚からPGCsを回収するのが最適であることを確認した。
- （２）透過性凍結保護剤としてのジメチルホルムアミド及びジメチルアセトアミドは，対照であるDMSOと比較してPGCs解凍後の回収率は有意に低かった。また，プロピレングリコールは有意な差はなかったものの対照より回収率及び生存率が高く，DMSOと同等以上の凍結保護効果があると考えられる。